PHARMACY DIGEST

2・3

2020 February & March

【巻頭インタビュー】……２Ｐ

市薬剤師会と大学が連携し感染症対策の市民啓発担う薬剤師を養成

地域イベントや教育現場で「手洗い」などを実演指導

東北大学 名誉教授
東北医科薬科大学医学部 感染症学教室 特任教授 賀来満夫、
東北大学大学院医学系研究科 内科病態学講座 総合感染症学分野 助教 吉田眞紀子
一般社団法人仙台市薬剤師会 会長 北村哲治、同会 副会長 高橋將喜、同会 理事 藤谷修平

【薬薬連携 ～薬剤師が変わると病院が変わる～⑪】……６Ｐ

令和２年度改定で院内薬剤師業務を評価する方針に

ファルメディコ株式会社／医療法人嘉健会 思温病院 理事長
熊本大学薬学部・熊本大学大学院薬学教育部 臨床教授 狭間研至

【To Best Pharmacy ～愛されるかかりつけ薬局を目指して～】……７Ｐ

株式会社Medical Ankh（静岡県浜松市）

【今月のおすすめ「食事療法レシピ」】**鶏肉と野菜のけんちんそば**……８Ｐ

PHARMACY DIGESTは 日本ケミファ株式会社 がお届けいたします

巻頭インタビュー

東北大学 名誉教授
東北医科薬科大学医学部 感染症学教室 特任教授
賀来　満夫 氏

東北大学大学院医学系研究科 内科病態学講座
総合感染症学分野 助教
吉田眞紀子 氏

一般社団法人 仙台市薬剤師会 会長
北村　哲治 氏
同会 副会長
高橋　將喜 氏
同会 理事
藤谷　修平 氏

市薬剤師会と大学が連携し 感染症対策の市民啓発担う薬剤師を養成

地域イベントや教育現場で「手洗い」などを実演指導

仙台市薬剤師会は、東北大学とともに、2018年から市民に向けて初期感染症予防策の啓発を手がける薬剤師の養成事業に乗り出した。この取り組みは、東北大学の賀来名誉教授が、行政・三師会等と開催している感染症に関する会議において「地域における ICT の構築」を提言したことに端を発する。これによって、「地域の ICT」として感染制御の実践を担うという、薬局薬剤師の新たな役割が見えてきた。

地域で感染症予防啓発を担う薬剤師を市薬剤師会が養成

――感染症の制御というと、病院内で活躍する感染制御チーム（Infection Control Team：ICT）のイメージがあります。地域に向けた活動が必要である背景を教えてください。

賀来　MRSA など院内感染を中心とした感染症対策は、これまで発症・伝播のリスクが高い医療施設を中心に実施されてきました。2002年ごろから厚生労働省は、院内感染を防ぐには地域の医療施設同士で情報共有し、協力・支援し合うネットワークを構築することが不可欠として対応してきましたが、宮城・東北地域ではそれに先立って1999年に感染対策地域ネットワーク活動を始動させ、先駆的に取り組んできました。その後、診療報酬でインセンティブも付けられ、日本では医療施設間、また医療施設と行政間の地域ネットワークづくりは世界のモデルとなる形で進められてきました。

▲賀来満夫氏

しかし、そこで抜けていたのが“地域社会”の視点です。感染症は家庭や学校、職場、高齢者施設など集団生活の場で常に起こり得ますし、オリンピックなど人の多く集まる場に行くことでの感染リスク（マスギャザリングにおける感染リスク）もあります。さらに災害時には、土や家屋の瓦礫、河川・海の水などが混じり合う環境下で、微生物へのばく露による破傷風などの感染症が必ず問題になります。

感染症にかかった人は、家庭や職場など地域社会でも感染を広げるリスクがあり、医療施設も市中感染の影響を受けます。しかし、現状の医療施設内だけの感染対策では、市中感染への対応が十分にできません。そうした意味で、市民を巻き込んだ感染制御の“ソシアルネットワーク”をつくり、地域全体において総合的な観点で対応していかなければいけないと考えたのです（**図 1**）。

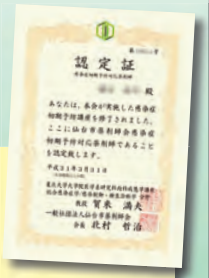
高橋　仙台市では、行政や三師会などで構成されている「仙台市感染症メディカル・ネットワーク会議」が、2009年の新型

表 1　仙台市薬剤師会 コミュニティ（Comm）ICT 対応薬局等の認定条件

Comm ICT 対応薬局　認定条件（案）

1）Comm ICT 対応薬局は、仙台市薬剤師会会長が認定した Comm ICT 対応薬剤師が勤務する。
2）Comm ICT 対応薬局は、市民が手洗い・咳エチケット・吐瀉物の処理・環境消毒・防護具の脱着等を体験できる場を提供し、Comm ICT 対応薬剤師が上記体験を指導する。
3）Comm ICT 対応薬局・薬剤師は、市民がスタンダードプリコーションを正しく実践できるように啓発・指導するとともに、正しく実践しているかを検証するために市民のための研修会を定期的（年2回程度）に開催する。
4）Comm ICT 対応薬局・薬剤師は、市民の感染症に対する過度の悲観や楽観を防ぐために、市民が感染症に対して適切に対応するよう適時啓発活動を行う。
5）Comm ICT 対応薬局は、上記 1）～4）のいずれかを実施できなくなった場合は、直ちに認定を返納する。

（※）Comm ICT 対応薬局が上記 2）～4）を実施するために必要な器具は、仙台市薬剤師会が準備する。
（蛍光塗料、ブラックライト、洗剤、マスク、手袋、ガウン、ゴーグル、消毒剤その他必要なものを準備する）



Comm ICT 対応薬剤師の認定証▶

Comm ICT 対応薬剤師　認定条件

1）仙台市薬剤師会会員は、東北大学大学院医学系研究科内科病態学講座 総合感染症学分野と仙台市薬剤師会が協働で定めた研修を必要回数受講したと認められたときに、仙台市薬剤師会会長より Comm ICT 対応薬剤師として認定される。
2）Comm ICT 対応薬剤師は、3年ごとに東北大学大学院医学系研究科内科病態学講座 総合感染症学分野と仙台市薬剤師会が協働で定めた研修を必要回数受講したときに、認定を継続できる。

（資料提供：仙台市薬剤師会）

◀（前列左から）北村哲治氏、賀来満夫氏、
（後列左から）藤谷修平氏、高橋將喜氏、吉田眞紀子氏。

インフルエンザのパンデミック以降、定期的に開催されています。私も委員として参加しているのですが、2017年の会議の場で、賀来先生が「地域でICTのようなものができないだろうか」と提案されたのです。そのコンセプトが、薬剤師会がずっと手がけてきた地域密着型薬局の構想とちょうど一致したため、「薬剤師会でできる」と手挙げをし、そこから動き出しました。

――それをきっかけに貴会では、保険薬局が地域住民に向けて、感染症予防を啓発する仕組み作りを開始されたそうですが、具体的にどのような取り組みなのでしょうか。

高橋　今、既存の抗菌薬が効かない耐性菌が出現し、病院では薬剤耐性（AMR）対策が行われています。そのなかで、病院薬剤師はICTや抗菌薬適正使用支援チーム（Antimicrobial Stewardship Team：AST）に参加し活躍しています。

▲高橋將喜氏

仙台市薬剤師会ではそれと同様に、薬局で地域の感染制御を担える「コミュニティ（Comm）ICT」対応薬剤師を養成することを目的に、感染症対策の専門家である賀来先生の研究室から全面的な支援を受け、2018年8月より研修を開始しました。現時点では初期予防にテーマを絞り、正しい手洗いやマスクの付け方、防護服の脱着など、地域のイベント等で一般市民に対して、標準感染予防策（Standard Precaution）の啓発活動ができる薬剤師の育成を進めています。

研修は全4回で、全てを受講すると「Comm ICT対応薬剤師」として認定されます。認定は3年ごとの更新制で、その都度決められた回数の研修を受講しなければなりません。今後はComm ICT対応薬剤師がいて、市民への研修会の定期開催など啓発活動をしている薬局を、併せて「Comm ICT対応薬局」として認定していく予定です（**表1**）。

ソシアルネットワークで薬局薬剤師が果たす役割

――そうしたICT活動においては、薬局薬剤師は中心的な担い手となり得るのですね。

賀来　コミュニティの中で感染制御を実践するには、市民に対する平時からの感染予防の啓発が必要です。ただ、医療施設の外来診療では疾患のある人への治療が中心で、感染症予防のことまで話す時間はなかなか取れません。保健師や学校の養護教諭、産業医などの役割も重要ですが、特定の層への働きかけが主体になります。より多くの一般の人たちに啓発するには、誰もが日常的に利用する保険薬局やドラッグストアの薬剤師が、ソシアルネットワークで果たす役割が非常に大きいと考えます。

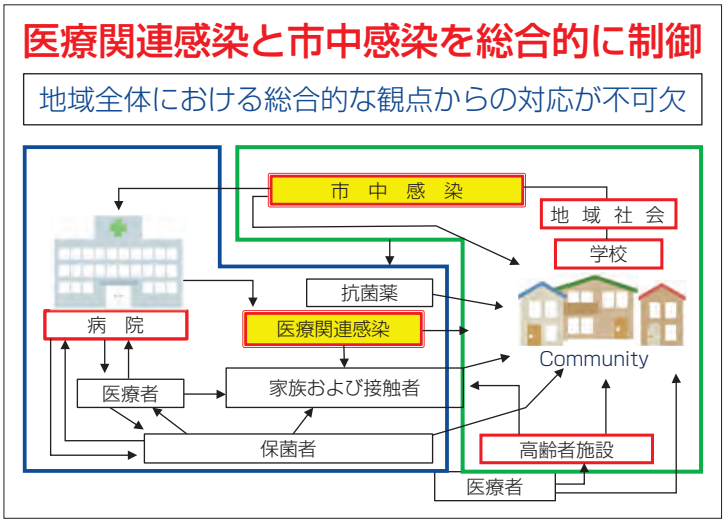
――市薬剤師会と東北大では、この取り組み以前にも感染症関連の連携の素地があったのでしょうか。

北村　当時、賀来先生の研究室に所属されていた吉田先生に、薬剤師会の活動に協力していただいていました。今、薬剤師の業務は保険点数中心で動いてしまっているところがありますが、薬剤師本来の職能として「公衆衛生の向上及び増進への寄与」が薬剤師法第1条に位置付けられています。そこで市薬剤師会としても、薬剤師の職務として公衆衛生にもっと力を入れて取り組み、普段の調剤や訪問薬剤指導業務のなかで、患者さんを取り巻く環境衛生についての助言なども積極的に行いたいと考え、公衆衛生の専門家である吉田先生に、4年ほど前から年1～2回の研修をお願いしていたのです。

▲北村哲治氏

吉田　私自身も薬剤師で、病院に20年勤めた後、疫学を学び公衆衛生分野に関わりました。現在は疫学者として薬剤師の視点で活動をしていて、特に病院内の院内感染対策を専門としているのですが、市民には正しい情報の提供がなかなかできていないことを感じていました。薬剤師は病気でない市民と日常的に会話ができる唯一の医療従事者です。処方薬の受け取りや健康相談などに来られた方に、平時から感染予防の正しい知識や説明ができるため、有事の際もその関係を生かして正しい情報の提供ができると考えています。薬剤師会の先生方も同じ考えをお持ちで、一緒に感染症対策の認定制度作りに協力させていただくきっかけになりました。

図1　ソシアルネットワーク構築の重要性



（資料提供：賀来満夫氏）

手洗いなど感染症初期対応を市民から市民へと広めることを目指して

――Comm ICT 対応薬剤師養成研修のプログラムの特徴を教えてください。

高橋　全４回のプログラム作りは、賀来先生と吉田先生にご協力いただきました。感染症の基礎知識のレクチャーのほか、市民に手洗いなどの手技を伝えていくことが目的なので、まず受講者にやっていただこうと実習に重点を置きました(**表２**)。マスクの付け方、吐瀉物の処理なども盛り込んでいます。

　また、家庭にある漂白剤などを希釈して環境消毒剤として使用する方法も教えます。東日本大震災のときに、私たちは避難所に詰めていたのですが、水が十分になかったこともあり、よほど手が汚れない限り洗わない状況でした。漂白剤などを利用して消毒剤代わりにしようと考えたのですが、製品の種類が多く、またそれぞれ濃度や成分が違うので、作り方を聞かれても対応できなかったという苦い経験があります。そのため、今回の研修ではペットボトルなど身近にあるものを使って、漂白剤などを希釈するといった実技もプログラムに加えてもらいました。

吉田　１回目の講義は賀来先生が担当されるのですが、動機付けを重視しました。「感染症とは」といった教科書的な説明ではなく、「感染症は身近にあるリスクで、対応していくべき課題である」と意識してもらうために、私たちの日常生活に感染症がどう関わっているのかという観点でレクチャーしたうえで、動機付けのためにディスカッションの時間を取っています。また、実践が目的なので、講義時間はできるだけ短くして、ガウンテクニックやマスクの使い方などを実習で学んでもらいます。何回も繰り返して確実に覚えてもらうために、毎回講義と実習をセットにしています。

▲吉田眞紀子氏

　最終的なゴールは、正しい感染症対策を市民に教えられるようになることです。研修の仕上げとして、私たちが聞き手役となり、市民向けの模擬勉強会として参加者にプレゼンテーションをしてもらいます。その経験を携えて自分の薬局に帰っていただき、それぞれ地域で実践していただくことで公衆衛生の向上につなげたいと、市薬剤師会とタッグを組んでやっています。

北村　先日は私たちが小学生や高齢者の役をやり、自分たちの言葉でうまく知識が伝わるかどうかを実際に試してみて、「説明にもう少しイラストを入れたほうがいい」など、意見を出し合いました。

――現在、Comm ICT 対応薬剤師の認定者はどれくらいですか。

北村　昨年が約20人、今年が約40人で、合わせて60人程度になります。全て保険薬局の薬剤師です。

――すでに地域のイベントで、感染症予防のレクチャーをした実績もあるのでしょうか。

高橋　市薬剤師会として定期的に開催している市民向け講座で、感染症予防体験のブースを出したり、学校薬剤師が小学生に教えるなどしています(**写真１**)。また、薬剤師会の活動とは別に、この研修を受けた人たちが地域包括支援センターに依頼された講義で指導したり、地域のイベントで手洗い講習をするなど、個々に活動する人たちも少しずつですが増えています。

　先日のイベントでは、見た目には無色の蛍光塗料を手に塗った後、それぞれ手を洗っていただき、その後にブラックライトを当て、どこに洗い残しがあるかを確認してもらう実験をしたのですが(**写真２**)、「こんなに洗えていなかったんだ」という感想が多かったです。普段通りに洗っていただいたのですが、２～３秒ほど水で流した程度でも、本人はきちんと洗ったつもりでいるという人が少なくないことが分かり、驚きました。

――今後、市民に広く啓発していくために、考えていることはありますか。

藤谷　今は、感染症初期対応として手洗いなど、簡単だけれどいろいろな感染症を防ぐ効果のある基本的な方法を広めようと取り組んでいます。最終的な目標は、私たちが教えた人たちが、他の人に教えられるようにすることです。

　学校薬剤師の例でいえば、保健委員の子どもたちに教えると、その子たちがクラスに戻って他のクラスメイトに

▲藤谷修平氏

表２　Comm ICT 対応薬剤師 養成研修会の内容(2018年)

１）8月18日(土) 14時30分～
①「感染症の脅威と危機管理」②「グループワーク」③「手洗い実習」
２）9月1日(土) 9時10分～
Ｊ感染症フォーラム：「Pharmacy 市民公開講座」
迫り来る感染症の脅威 ―災害時に私たちが果たすべき役割とは―
３）9月4日(火) 18時30分～
①「標準予防策・飛沫感染予防策」
②「流水石けん手洗い・PPE 着脱・マスクの付け方実習」
４）9月17日(月) 14時～
①「標準予防策・接触感染予防策」 ②「次亜塩素酸 Na の希釈・調整実習」、「手袋脱時の汚染実習」、「吐瀉物処理実習」
５）9月19日(水) 18時30分～
①総合実習　②「ロールプレイ」

※　薬剤師会が Comm ICT 対応薬剤師として認定する

(資料提供：仙台市薬剤師会)

▲写真１　薬剤師による小学校での感染症レクチャーの様子。

▼写真２　市民向けイベントでは、透明な蛍光塗料を塗ってから手を洗い、ブラックライトを当てて洗い残しを確認してもらった。

(資料提供：仙台市薬剤師会)

教えているのです。教えるためには自分が理解しなければいけないので、その子の予備知識はさらに増えます。一方、教わる子は、同級生が相手だと分からないことを遠慮なく聞けるので、理解も深まります。そして、その子たちが家庭でお父さん、お母さんに教えるといったように次々と広がっていけば、リスクの高い学校や家庭での感染率が下がっていくのではないかと期待しています。私たちのレクチャーを受けた人たちを“感染症初期予防サポーター”と呼んでいるのですが、受講者に認定証を渡すことなども一案として検討中です。

処方箋がなくても相談に訪れやすい地域密着型薬局「ハートヘルス プラザ」

――市薬剤師会として、とても熱心に市民啓発活動に取り組まれていらっしゃるという印象を受けましたが、その理由を教えてください。

北村　市薬剤師会では、以前から「ハートヘルス　プラザ」活動を実施しています。医薬分業が進んで、薬局の業務は調剤が主体になり、地域の人たちの健康相談を受けることが少なくなりました。しかし、厳しい保険財政のもと、調剤報酬に振り回されることへの不安が増すなかで、震災時に薬剤師会のボランティア活動が高く評価された経験を踏まえ、点数に関係なく自分たちの職能を積極的に生かそうと始めたのがこの取り組みです。

処方箋がなくても市民が相談に来店しやすい地域密着型薬局を目指し（**図2**）、まずは疾患を絞って相談対応できるようにと、2014年に「認知症」、次いで「うつ」「防煙・受動喫煙防止」の対応に取り組みました（**表3**）。いずれも、市薬剤師会が実施する所定の研修を受講したうえで薬局として参加していただく仕組みで、今回の感染症対策もこれらに続くものです。

高橋　最初の認知症対応薬局は20薬局から始まり、少しずつ増えていって、今では280薬局までに上っています。2年前に感染症対策について薬剤師会が手挙げできたのも、この「ハートヘルス　プラザ」の参加薬局が、その時点で150施設ほどに拡大していたことが大きかったと思います。

地域で啓発する“現場のプレイヤー”への期待 今後は災害時対応ができる薬剤師の育成も

――今回の取り組みには、市薬剤師会がすでに積み重ねてきた実績が背景にあったわけですね。これまでの活動で感じた手応えと今後の展望をお聞かせください。

北村　小学校では、感染症を分かりやすく伝えるために「インフルエンザをなくそう」というテーマでレクチャーしたのですが、参加した子どもたちが非常に興味を持ってくれ、学校の先生方も本気で対策を考えてくれていることに手応えを感じました。今後は、Comm ICT 対応薬剤師を増やすとともに、災害時の感染制御対応ができる薬剤師の育成も考えています。

藤谷　受講した薬剤師が、市薬剤師会主催のイベントだけではなく、個々でも地域や多職種のなかで啓発活動をする例が出てきていて、この取り組みをして良かったと感じています。今後は、市薬剤師会としても、インフルエンザやノロウイルスなど、感染症対策を掲げたイベントをするなど、より積極的に活動を展開していきたいです。

高橋　イベントで手洗い体験をした大人が、何人も「こんなに汚れが残っているのが分かって良かった」などと口を揃えて言ってくれたのですが、こうした参加型のイベントは初めてだったので「やってよかった」と感じました。Comm ICT 対応薬局も、今後さらに増やしていきたいと考えています。

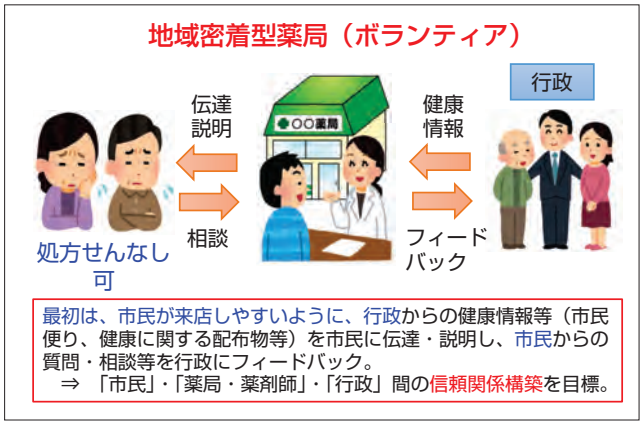
――専門家のお立場からはいかがですか。

吉田　現状では、感染症対策は一般市民に十分普及しているとはいえません。その原因を考えたとき、一番大きな要因は「地域で知識と経験を持って市民に啓発する“現場のプレイヤー”が足りないこと」だと思うのです。ですから今回、市薬剤師会の先生方と一緒にこの取り組みをする機会を得て、感染予防の知識が市民の中に広がっていく流れができたことは、非常に大きいと考えています。

賀来　感染症は個人の病気であるとともに、社会の病気でもあります。そう考えると、これからは医療の枠を越えた地域社会全体での感染症対策をどうするかが、重要なテーマになると考えます。その際、やはり啓発活動の鍵になるのは、市民が普段から気軽に訪れている保険薬局やドラッグストアにいる薬剤師の先生方だと思うのです。ぜひ、これからも協調して取り組んでいただければと思います。

――活動の一層の広まりを期待しております。本日はありがとうございました。

図2　「ハートヘルス プラザ」のイメージ



（資料提供：仙台市薬剤師会）

表3　「ハートヘルス プラザ」の現在の取り組み

1）**認知症対応薬局**（2014年4月1日～） 認知症早期発見・服薬継続向上、つなぐ・出会いの場紹介	**280薬局**参加
2）**うつ対応薬局**（2019年4月1日～） 眠剤を手掛かりにうつ早期発見・服薬継続向上、つなぐ	**40薬局**参加
3）**防煙・受動喫煙防止対応薬局**（2018年4月1日～） 防煙相談を受ける薬局	**40薬局**参加
4）**感染症初期予防対応薬局**（2018年10月1日～） 市民が市中感染症を予防するための標準感染予防策およびAMR 対策を自ら実践するための支援をする	**60薬局**参加
5）**フレイル・サルコペニア対応薬局**（2019年4月1日～） フレイル・サルコペニア・嚥下困難の相談を受ける薬局	**40薬局**参加

（資料提供：仙台市薬剤師会）

薬薬連携 ~薬剤師が変わると病院が変わる~

ファルメディコ株式会社／医療法人嘉健会 思温病院 理事長
熊本大学薬学部・熊本大学大学院薬学教育部 臨床教授
医師・医学博士 **狭間 研至**

第11回　令和２年度改定で院内薬剤師業務を評価する方針に

病院・薬局の薬剤師同士の密な連携がなければ深刻化するポリファーマシーや残薬問題は解決しない

令和も２年目となりました。新しい時代になって初めての診療報酬改定の概要が明らかになってきましたが、病院薬剤師の業務を評価する流れが出てきました。特に、昨年末にまとめられた「令和２年度診療報酬改定の基本方針」（https://www.mhlw.go.jp/content/12401000/000575289.pdf）では、改定の基本的視点が４つ挙げられたのですが、そのうちの２つに「院内薬剤師」という少々聞き慣れない言葉が出てくるのです。

まず１つは、「２．患者・国民にとって身近であって、安心・安全で質の高い医療の実現」という基本方針のもとで「院内薬剤師業務の評価」と明記されているところです。これは、薬局と病院薬剤部での調剤料が違いすぎることを検討する中で、病院での薬剤師の業務がいかに役に立っているのかということが中医協の議論でも上がってきたことが関係しているのかも知れません。

そしてもう１つは、「４．効率化・適正化を通じた制度の安定性・持続可能性の向上」という基本方針のもとで「医師・院内薬剤師と薬局薬剤師の協働の取組による医薬品の適正使用の推進」として挙げられた項目です。ポリファーマシーや残薬の問題などは、地域包括ケアシステム実現の中では患者の療養場所が患者の状態に応じて変わっていくことが予想されるため、現在のままではさらに深刻化する恐れがあります。この問題を解決するには、病院と薬局で薬剤師同士も今までよりも深く連携することが重要だと考えられたことと関係しているでしょう。

これら２つのことに共通することは、本連載で何度も触れてきたとともに、今回の改正薬機法にも織り込まれた「薬剤師が服用後までフォローする」ということではないかと個人的には思っています。というのも、医師が処方した薬をお渡しするまでなら、病院薬剤師の業務は機械化と ICT 化の波に飲み込まれてしまい、これ以上評価することは難しいですし、場合によっては薬局での調剤料の見直し議論と同様に評価は引き下げられていくでしょう。また、薬剤師が処方内容やアレルギー歴などの患者情報のみを連携するのであれば、医療マイナンバー制度の導入など仕組みができれば容易につなげることができるばかりではなく、それだけでは、ポリファーマシーや残薬などの問題は基本的に解決しないのではないでしょうか。

改定で薬剤師業務のあり方が大きく変わる可能性来るべき変化に備えて準備を進めよう

今回、院内薬剤師業務が評価される方向性が出てきたのは、病棟常駐業務の中で薬剤師は自然と服用後のフォロー、薬学的アセスメント、それに基づく医師へのフィードバックというサイクルを回し始め、結果的に、減薬や薬剤性有害事象の回避といったアウトカムを出し始めたことが大きかったのだと思います。それと同時に、服用後のフォローをすることで、薬薬連携で書く内容が患者の状況や治療の経緯にシフトし始めた事例が出てきたためではないかと感じています。

実際、対人業務にシフトし始めた病院・薬局の薬剤師のやりとりは、医師の目でみても非常に興味深く、勉強になるだけでなく、何よりも患者さんの状態をキープするためには重要であると感じさせられます。

これらの基本方針が、実際の診療報酬にどの程度反映されるかはわかりませんが、その程度や範囲によっては、薬局薬剤師の業務のあり方が大きく変わるでしょうし、それによって、薬薬連携のもう一方側である病院薬剤師の働き方も大きく変わっていくことが予想されます。今年度も残りわずかですが、いろいろな情報を入手しながら、来るべき変化に備えて準備を進めることが重要だと思います。

File. 82

株式会社 Medical Ankh（アンク薬局）

（本社：静岡県浜松市）

Safety かつ Speedy な調剤で患者を笑顔に
ブラウンバッグ作成等で 積極的な残薬解消対策も

safety かつ speedy な調剤の実践を心がけ、丁寧な対応で地域住民からの信頼を積み重ねている株式会社 Medical Ankh。「気軽に相談できる薬局でありたい」とさまざまな取り組みを展開している。同社代表取締役の渥美氏にお話を伺った。

▲代表取締役　渥美将彦氏

――はじめに、貴社の概要をご紹介ください。

2011年１月27日に株式会社 Medical Ankh を創業し、同年10月17日にアンク薬局を開局しました。Ankh とは、エジプトの神々が手に持つ十字架のことです。

すべての患者さんに笑顔になっていただけるよう、safety かつ speedy な調剤を実践しようと日々努力しています。ここで重要なのは、safety が先に来ること。安全が担保されなければ、いくら speedy であっても意味をなさないからです。

――普段の取り組みの中で、特に力を入れておられるのはどのようなことでしょうか。

呼吸器内科の前にある薬局ですので、吸入薬の使い方を丁寧に説明しています。他の医療機関で吸入薬を使っても、咳が止まらない患者さんが転院されてくることがありますが、そのようなケースでは、デバイスの使い方に問題はなくても、吸入方法が悪いことが多いように感じます。デモ機を使用してデバイスの使い方を説明している薬局は多いようですが、デモ機を使用して吸入方法まで指導している薬局は少ないように感じます。吸入薬は、しっかり吸えて初めて効果が出るので、時間をかけて説明しています。最近では、臨床検査値を用いた CKD 連携モデル事業に参加し、腎機能が低下した高齢患者さんに注意喚起をしたり、腎機能低下患者さんの処方薬について医療機関に積極的に問い合わせを行うなどの取り組みもしています。

また、地域の訪問看護ステーションと連携を始めたのですが、「薬の疑問をどこに聞けばいいか分からない」と訪問看護ステーションより相談を受けたことから、薬の説明会を定期的に実施する予定です。いつでも気軽に相談できる薬局でありたいと思っています。

――残薬の削減にも積極的に取り組まれているとか。

はい。薬局でブラウンバッグを作成しました。医師に残薬があることをなかなか言い出せない患者さんや、残薬を数えることが面倒な患者さんなど、さまざまかと思いますが、ブラウンバッグを配布したことで残薬があることを伝えやすくなったのではないかと思います。2019年12月の第52回東海薬剤師学術大会では、当薬局の薬剤師が「減量・減薬金額に関連した患者背景の調査」として口頭発表しました。今後も、積極的に残薬解消に取り組んでいきたいと思います。

余談ですが、「体を動かさないといけない」との気持ちはあるものの、運動のきっかけがつかめなかった薬剤師会の仲間たちに声をかけて、駅伝に参加しています。初めは嫌々参加していたメンバーも、今では楽しく参加してタイムを競うようになってきました。患者さんの運動の相談にものっており、薬局の待合室にはトレーニング雑誌『Tarzan』を準備して、貸し出しを行っています。楽しく運動することで、減薬のお手伝いができたらと考えています。

▲アンク薬局の外観

▲連携を進めている訪問看護ステーションが入る、地元の介護老人福祉施設。

▶オリジナル制作のブラウンバッグ。さりげないセンスが光る。

◀駅伝に参加した薬剤師会の仲間たちとのひとコマ。

▼待合室にはトレーニング雑誌を取り揃え、来局者の運動をサポート。

基本 DATA

本社所在地：静岡県浜松市浜北区本沢合800／創業：2011年／店舗数：１店舗／従業員数：８名(内、薬剤師４名)／URL = http://www12.plala.or.jp/medicalankh/

今月のおすすめ「食事療法レシピ」

鶏肉と野菜のけんちんそば

このような傾向の方におすすめ
●糖尿病　●高血圧　●肥満　●高尿酸血症・痛風

鶏肉、根菜、小松菜を麺つゆで煮て、具だくさんのつけ麺にします。

◎管理栄養士からのレシピポイント

ごぼうやそばに含まれる食物繊維には、血糖値の急激な上昇を抑える働きがあります。鶏肉や根菜などで具だくさんにすると食べごたえが増し、麺類の早食い防止に役立ちます。

材料（２人分）

そば（ゆで）　２玉
鶏むね肉　60 g
大根　80 g
にんじん　30 g
ごぼう　30 g
小松菜　40 g
しいたけ　２枚
めんつゆ（３倍濃縮）　50mL

作り方

①鶏肉は食べやすい大きさに切る。大根、にんじんはいちょう切り、ごぼうはささがきにして水にさらす。小松菜は２～３㎝の長さ、しいたけは薄切りにする。
②鍋にめんつゆ、水 200mL を入れて火にかけ、①を煮る。
③そばはゆでて流水にとり、ザルにあげて水けをきる。器に盛り、②を添える。

塩分（１人前）　2.6g
カロリー（１人前）　322kcal
調理時間：15 分
分　　類：主食
難 易 度：簡単
ジャンル：和

©Nippon Chemiphar Co., Ltd.

そのほかのレシピもご紹介しています。詳しくは日本ケミファホームページへ。　http://www.chemiphar.co.jp/

薬価基準収載

重ねてきた信頼の歴史を
ジェネリック医薬品の未来に

プロトンポンプ阻害剤　処方箋医薬品注)

ラベプラゾールナトリウム錠 10mg「ケミファ」
ラベプラゾールナトリウム錠 20mg「ケミファ」
Rabeprazole〈ラベプラゾールナトリウム錠〉

注）注意－医師等の処方箋により使用すること

ラベプラゾールナトリウム錠10mg「ケミファ」

表　裏

ラベプラゾールナトリウム錠20mg「ケミファ」

表　裏

●効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む使用上の注意等につきましては添付文書をご参照下さい。

製造販売元（資料請求先）
日本ケミファ株式会社
東京都千代田区岩本町2丁目2-3

2019-12

おくすりに関する資料及び製品に関するお問い合わせ先
日本ケミファ株式会社　くすり相談室（安全管理部）
受付時間　8:45～17:30 土日・祝祭日を除く
TEL 03-3863-1225　フリーダイヤル 0120-47-9321

PHARMACY DIGEST［2020年2・3月号］
発行日 ■ 2020年2月1日
発　行 ■ 日本ケミファ株式会社
〒101-0032　東京都千代田区岩本町２丁目２番３号
TEL：03-3863-1211（大代表）URL：http://www.chemiphar.co.jp
製　作 ■ 株式会社ドラッグマガジン ／ 印　刷 ■ 広研印刷株式会社